

# 信州こころん 身体拘束ゼロに向けたルール

どんな些細なことであったとしても、問題行動が起きやすい状況を課題として把握・共有して、より適切な支援・行動がしやすいように整備し、問題行動が起こりにくいようにすることが大切です。

## 事前の工夫について

- ① 事前に予定を視覚的に示す
- ② 指示やルールを視覚的に示す
- ③ 気になるものがあれば取り除く
- ④ 本人の興味・関心のあるものを取り入れる
- ⑤ 課題や仕事の量、難易度を下げる
- ⑥ 事前に約束をする
- ⑦ 選択肢を掲示し、本人に選択させる
- ⑧ 適切な行動をしやすいよう援助・支援ツールなど作成・活用する
- ⑨ 「問題が無い＝普通」とならず、しっかり褒め・共有する
- ⑩ 問題行動があっても、影響が最小限になるようにする

## 起こってしまったときには・・・

- ・ 感情的に叱るだけではなく、どうしたらよいのかを具体的に教える
- ・ たくさんの指示・注意などはせず、さらに混乱・興奮がエスカレートしないように気をつける
- ・ 興奮をコントロールさせる
- ・ クールダウンさせる
- ・ 場所・作業などの環境を変える
- ・ 援助つきでもよいので少しやらせて褒める
- ・ 放置することなく、必ず職員が付き添う

## 一回避の意味合いの行動の場合は特に重要

- ※ 他の利用者に被害が起こることがないように、安全を確保しなくてはなりません
- ※ 一人の判断に頼らず、管理者、サービス管理責任者、マネージャー、他職員の複数の職員による話し合いを行ってください
- ※ 自傷行為等を行っている利用者に対して、上記「起こってしまったときは・・・」の項目を参考にし、応急処置、家族への連絡、病院等への連絡をしてください

## そのあとの対応

- ・ 対応の記録、経過観察をとる
- ・ 支援方法、指導方法の見直し、改善していく
- ・ 事前の工夫や結果が機能しているのかを判断し、改善していく
- ・ 個別支援計画の目標、ステップを見直し、援助して成功体験へ導く